

特別講演 1

「アルツハイマー病の先制医療についての最近の話題」

滋賀医科大学 分子神経科学研究センター 教授

遠山 育夫 先生

現在、我が国の認知症患者数は 462 万人、認知症予備軍が 400 万人と推測され、その数は今後も増大していくと予想されている。認知症患者の 60～70%はアルツハイマー病であり、認知症の解決には、アルツハイマー病の克服がとくに重要である。最近の研究によれば、アルツハイマー病の神経病理は、発症のおよそ 20 年前から始まることが明らかになった。PET によるアミロイドイメージングや髄液検査によって、発症前のアルツハイマー病患者を診断できることから、これらバイオマーカーによってアルツハイマー病を発症前に診断して治療することにより、アルツハイマー病の発症を防ごうという先制医療が、議論されるようになってきた。先制医療が普及するためには、良いバイオマーカーの確立と副作用が少なく効果的な治療薬の開発が必須である。アルツハイマー病の先制医療についての最近の話題について、我々のデータを含めて紹介する。